



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL
宮城県立こども病院

発行：地方独立行政法人 宮城県立こども病院

「三代目病院長として抱負と所信」

院長 今泉 益栄



「いのちの輝き」は宮城県立こども病院の広報紙で、平成14年（2002年）創刊以来No.47となります。本年4月から前院長 林富先生の後任として、今泉益栄が病院長を拝命したことをお知らせします。私は昭和54年東北大学を卒業後、小児科医として小児血液・がんの診療にたずさわり、こども病院勤務14年目となります。今後「いのちの輝き」の巻頭言を担当し、こども病院の今（なう）をお伝えしたいと思います。

こども病院は初代院長 大井龍司先生のご指導の元、平成15年（2003年）11月に開院し今日まで宮城・東北の小児医療に貢献して参りました。昨年3月には拓桃医療療育センターが移転統合し「良質で安全な医療と療育」を理念に掲げ、小児疾患の急性・慢性期～在宅医療を一貫してみる病院を目指しています。現在、登録医療機関数は629（登録医1,051名）、病院ボランティア登録数は268名になりました。

今の社会は激しい変化の中にあります。小児医療も例外ではなく、少子高齢化による小児人口の減少、予防接種普及による疾病構造の変化、高度医療による難病治療の進歩と在宅医療の拡大など、変化は多岐に渡り凄まじい速さで進んでいます。この変化を乗り切るには二つのことが必要だと思います。一つは、「変化を生きのびるのは強いものではなく、変化に適応できるものである」の通り、こども病院は自らの強みを再確認しその活用を実現しなければなりません。もう一つは、病院職員が楽しく生き甲斐を持って働いているかどうかです。

この「いのちの輝き」No.47でお分かりいただける様に、多様な職種と若いスタッフが多いこども病院職員は自らの笑顔患者家族に届けたいとの気持ちで日々働いております。今後とも温かいご支援とご協力をお願いします。

病院理念

- ・私たちは、こどもの権利を尊重し、こどもの成長を育む心の通った医療・療育を行います。
- ・私たちは、高度で専門的な知識と技術に支えられた、良質で安全な医療・療育を行います。

基本方針

1. チーム医療・成育医療及び総合的な療育プログラムを実践し、温かい医療・療育を行います。
2. こどもの成長・発達に応じたきめ細やかな医療・療育を行い、自立の心を育みます。
3. 一人ひとりの成長・発達に寄り添い、安全で潤いのある療養・療育環境を整えます。
4. 小児医療と療育の中核施設として、地域の関係機関と連携し、患者や家族の地域での生活を支えます。
5. こどもや家族と診療・療育内容の情報を共有し、情報公開に努めます。
6. 自己評価を行い、外部評価を尊重するとともに、業務の改善や効率化を図り、健全経営に努めます。
7. 臨床研究及び人材の育成を推進し、医療・療育水準の向上に貢献します。
8. 職員の就労環境を整備するとともに、職員の知識・技術の習得を支援します。

Contents

各診療科アピールポイント	2
看護部長あいさつ	3
部門紹介	3
地域医療連携室だより	4
拓桃園紹介	5
ボランティア紹介	6
行事予定	6
編集後記	6



「発達診療科について」

発達診療科 科長 奈良 隆寛

「発達診療科」は2016年3月の拓桃医療療育センター統合に伴い、「リハビリテーション科」から名前を変え、外来では発達障害の診療を、病棟ではNICUにて新生児期から発達支援を、ICUや本館病棟にて呼吸理学療法や廃用症候群に対する運動療法と摂食療法を行っています。

外来では、発達の遅れや偏りのあるお子さんの生活指導をしています。できないことを克服していくよりも、できることを広げていく方が大切だと考えています。障害と決めつけるのではなく、家庭の中や通園施設や統合保育や幼稚園で使える道具を利用して、お子さんの発達を伸ばし偏りを補正していくことを、正常化よりも最適化をめざすように、親御さんと一緒に考えていきます。当科の特徴は紹介いただいた後の待ち期間が1か月以内と短いことです。ことばやコミュニケーションの問題（精神発達遅滞や自閉症）と学習面（学習障害やADHD）に対処しています。とくに10%もいる発達障害（自閉症・ADHD・学習障害）に対しては県内に診断だけでなく対応の仕方まで相談できる施設が少ないので、多くのこどもたちを紹介してもらっています。

発達障害のこどもたちには認知リハビリテーションを作業療法士（OT）が行い（写真1）、ソーシャルスキルトレーニングを言語聴覚士（ST）と臨床心理士（CP）に依頼しています（写真2）。また、かれらは不適切な関わりによって二次障害をきたすことがあり、トラウマ治療も含めた心理社会的アプローチを親子に対して行うようになりました。

また、NICUには発達診療科医と理学療法士（PT）2人と言語聴覚士1人が週1で回診し（写真3）、32週以下または1,500g以下で出生した低出生体重児とリスク児を評価しています。必要があれば、ポジショニングなどの理学療法を開始し、修正4か月齢で外来評価につなげます。7か月、10か月、1歳、そして1歳半から3歳までは6か月毎に、さらに就学までは1年毎に診察し、臨床心理士が定期的に発達検査を行い、フォローアップしています。

病棟業務として入院中のリハビリテーションは①治療や手術による長期臥床後の廃用症候群の理学療法、②呼吸理学療法、③摂食障害の摂食指導があげられ、発達診療科医と療法士と主治医との間で、隔週でカンファレンスを開き情報を共有し、こどもたちの回復をめざしています。



写真1：前列 奈良医師、篠澤 OT 後列左から橋浦 OT、熊谷 OT、大窪 OT、森山 OT、二階堂 OT



写真2：心理社会的治療グループ（左から涌澤医師、安達CP、奈良医師、佐藤CP、和田CP）



写真3：NICU 発達支援グループ（左から松田PT、大塚ST、奈良医師、吉田PT）

あたたかな看護を笑顔で実践！



看護部長 本地 眞美子



本年4月から看護部長を拝命しました本地でございます。こども病院には2004年から勤務しております。当時の寺島看護部長（初代）は、看護理念の「こどもと家族の人権の尊重」「成長発達を促す看護」「あたたかな看護」に表現された「こども中心の看護」の姿勢を職員に根付かせることに尽力されておりました。前任の星野看護部長在職中に宮城県拓桃医療療育センターと統合となり、看護部は医療安全を軸とした「看護の質の向上」と「療育とQOLの拡大」を重視して、組織の基盤強化を図って参りました。

今後は300余名の看護職員個々が、個別性あるあたたかな看護を笑顔で提供することを目指します。それは、知識と技術と倫理観に支えられた看護を自ら考え、責任を持って実践することです。私達の笑顔はご家族との信頼関係を築き、こども達の笑顔に繋がると信じています。笑児（ショウニ・小児）看護を実践してファミリーホスピタルの一翼を担って参ります。足元の整備に負われている日々ですが、こども達とご家族はもちろん、医療・福祉・行政・教育関連の皆様から忌憚のないご意見をご教示いただき、少しずつではありますが役割を果たしていきたいと存じます。どうぞ今後ともよろしくお願い致します。

部門紹介

薬剤部



薬剤部長 二木 彰

薬剤部は、薬剤師14名、薬剤業務補助者4名の総勢18名で日々の業務にあたっています。

業務内容は、調剤業務、病棟業務、患者さんの治療に必要であっても薬が市販されていない場合には院内製剤を調製する製剤業務などがあります。さらに医薬品の管理、治験業務、患者さんや医療スタッフに対する医薬品情報の提供など多岐にわたっています。

病棟業務では、病棟に設置したサテライトファーマシーを拠点として「薬に関することすべて」に薬剤師が関わることを目標に活動しています。現在、限られた時間ではありますが、配置薬品の管理、与薬カートへのセット、服薬指導、持参薬の確認などの業務を行っています。こども病院の特徴として、散薬・水薬の調剤や錠剤・カプセル剤の粉碎調剤の割合が非常に高く、調剤に多くの手間と時間を要します。

今後もこどもたちそれぞれの状況・状態にできるだけ対応したいと考えています。お薬に関する要望や疑問がありましたら、些細なことでも構いませんのでお近くの薬剤師にご相談ください。



後列右、二木彰薬剤部長とスタッフの皆さん



地域医療連携室だより



● 地域医療研修会のご案内 ●

平成 29 年度 療育支援研修会

平成 29 年 10 月 6 日（金）10:00～16:00 当院 本館 1 階 愛子ホール

地域スタッフを対象に、障害をもつこどものより良い日常生活を支援するため、コーディネーターの役割を持つ方々とともに地域・家族支援や医療的知識を学ぶ機会として、療育支援研修会を開催いたします。

今年度は当院外科医師から、重症児者医療に携わる人材の育成を主に講話を行う予定です。また、療育総論、医療・療育・教育の解説については、より理解を深めていただけるよう、分かりやすい講義内容を心がけてまいります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

小児看護研修会

日 時 平成 29 年 10 月 30 日（月）18:00～19:00

場 所 宮城県立こども病院 本館 1 階 愛子ホール

演 題 『信頼される「動作・表情・話し方」言葉よりも心に響く！～非言語コミュニケーションの技術～』

講 師 カウンセリングルーム Acceptance

カウンセラー 白石 邦明 先生

平成 29 年度 第 3 回感染対策研修会

平成 29 年 11 月 10 日（金）18:00～19:00 当院 本館 1 階 愛子ホール

演 題 「村度と選択の感染対策 — お作法ではなく自分で考える防御策 —」

講 師 兵庫県立こども病院 感染症科

科長 笠井 正志 先生

標記の研修会以外にも、臨床放射線病理カンファランス、臨床遺伝カンファランス、輸血研修会、小児 NST 研修会、安全対策研修会等の開催を予定しております。詳細が決まり次第、当院ホームページ <http://www.miyagi-children.or.jp/> に掲載しますとともに、メールアドレス登録済みの先生方へ電子メールでご案内いたします。

地域医療連携室電話対応時間（短期入所関連含む）について

当院地域医療連携室での電話予約対応時間（短期入所関連含む）は、平成 29 年 1 月より、平日の 8:30～17:00 となりました。

ご不便をおかけしますが、何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

宮城県立こども病院 地域医療連携室 室長 虻川 大樹

〒989-3126 仙台市青葉区落合四丁目3番17号

開室時間 月曜日～金曜日（祝日、年末年始は除く）8:30～17:00

TEL: 022-391-5115（直通） FAX: 022-391-5120（直通）

E-mail: tiiki@miyagi-children.or.jp

拓桃園紹介



理学療法 (PT) 部門について

リハビリテーション・発達支援部
上席主任理学療法士 (PT リーダー) 工藤 久江

2016年3月に拓桃医療療育センターとの統合があり、リハビリテーション・発達支援部の理学療法(PT)部門は2名から12名にパワーアップしました。

PTでは、個々の発達に合わせて運動機能の獲得を促し、その運動機能を基本とした日常生活活動(ADL)、遊び、学習等のいろいろな活動が「効率良く」できるように、治療および環境設定等の助言を行っています。また、必要に応じて車いすや座位保持装置、歩行補助具等の検討・作製等を支援しています。

入院は、本館および拓桃館の両方を受け持っており、PTは病院内のあちこちを元気に動き回っています。また外来では、赤ちゃんから学校を卒業した方まで、幅広く対応しています。

そのなかでも拓桃館に入院・入所することもたちは、朝起きて学校へ通学し、夜寝るまでの一日の生活の中に、個別リハビリテーションが時間割として組み込まれています。手術後の経過・安静度に合わせて、できるだけ能動的な生活を送りながら、こどもたちが持っている力を「生活の中」で発揮できるように支援しています。そのためには、個別リハビリテーションの時間だけの取り組みではなく、病棟での活動そのものをリハビリテーションと捉えて、他部署と一緒に取り組んでいます。リハビリテーションは、こどもとご家族を中心に、「チーム」で力を発揮しますので、院内の他部署はもちろん、こどもの生活に関わる地域のスタッフとも連携を図っていくことを大切にしています。

こどもたちは、ライフステージの変化に伴い、生活空間や関わる人々が異なり、求めること・求められることも変化していきます。その中で「苦しいリハビリ」「辛いリハビリ」ではなく、「できること」「楽しいこと」「暮らしやすいこと」が少しでも増えていくことを目指して、私たちもこどもたちと一緒に悩みを共有しながら、日々成長していきたいと思っています。

PT12人それぞれが12色の色を出しながら、他部署とも力を合わせて頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。



後列左より 洞口 PT、森下 PT、加藤 PT、村上 PT、有路 PT、吉田 PT
前列左より 菅野 PT、廣島 PT、工藤 PT、松田 PT、小山 PT



● ボランティア紹介 ●

ソーイング



遠藤 時子・遠藤 和子

ボランティア活動はさまざまありますが今回ご紹介するソーイングは病院からの需要があってから行われるボランティア活動なので、まさに縁の下の力持ちです。

平成 29 年度も早速ご活躍いただきました。

ひとつは歯科において子どもを抑える抑制帯の作成です。歯科医が安全に早く治療ができるように大活躍です。子どもにとって『抑制帯』は『安心帯』といってもよいかもしれません。

もうひとつは『保冷材入れポケット付きのメッシュベスト』です。寝返りをどんなに打っても保冷材が外れずに子どもの熱をさましてくれる優れものです。メッシュ素材がマジックテープにつきやすく製作には大変ご苦労されたとのことでしたがきれいに仕上げてください、子どもの味方になっています。

今までも、そしてこれからも、病院診療を支えてくださる頼もしくてやさしいボランティア活動です。
(文責 ボランティアコーディネーター 佐藤 直子)



保冷材入れポケット付きのメッシュベスト



歯科処置台に取り付けた抑制帯

行事予定

- 9/11 (月) 第 163 回まほうの広場コンサート
- 9/13 (水) クリニクラウン訪問
- 9/20 (水) ミヤギテレビ杯ダンロップ女子ゴルフトーナメント出場選手慰問
- 9/27 (水) お抹茶を楽しむ会
- 10/ 5 (木) 第 164 回まほうの広場コンサート
- 10/11 (水) クリニクラウン訪問
- 10/25 (水) お抹茶を楽しむ会
- 10/27 (金) ハロウィン

編集後記

今年度最初の広報紙「いのちの輝き」は、秋の訪れを感じる 9 月の発行となりました。今年の仙台は、晴れる日が殆どなく、夏を感じる前に秋がやってきたといった印象です。

さて、今回から広報紙「いのちの輝き」のデザインが変わったことにお気づきでしたでしょうか？ 記事構成に大きな変更はありませんが、表紙デザインを大きく変更いたしました。「いのちの輝き」になぞらえ、木々の葉の明るさと生命力を表現しています。広報紙の新たな顔として、多くの方に親しまれるよう期待しています。

新たな顔といえば、今回の「いのちの輝き」では、平成 29 年 4 月に就任した今泉院長と本地看護部長の挨拶を掲載させていただきました。宮城県立子ども病院の新たな船出に懸ける思いを感じ取っていただけたのではないのでしょうか。

今年度も、新たな広報紙「いのちの輝き」に、子ども病院の思いをのせてお届けしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(経営企画課 藤本 尚子)

地方独立行政法人

宮城県立子ども病院

〒 989-3126

宮城県仙台市青葉区落合四丁目 3-17

TEL: 022-391-5111

FAX: 022-391-5118

<http://www.miyagi-children.or.jp/>

広報委員会

委員長 田中 高志

広報委員 阿部 智

乾 健彦

小畑 正子

鈴木 敏也

洞口 亮

原山千穂子

町井 祐輔

横山麻依子

虻川 大樹

岩崎かおり

櫻井奈津子

武山 淳二

中村 一樹

藤本 尚子

三上 静香

猪狩 奈緒

大塚 有希

佐藤 慎

千葉 弥生

濱町友里恵

真嶋 智彦

皆川 寛恵



日本医療機能評価機構
認定第 JC1934 号

当院は日本医療機能評価機構の認定病院です。



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷資材を使用し、グリーンプリンティング認定工場が印刷した環境配慮商品です。用紙は責任をもって管理された森林から作られたFSC®認証紙を使用し、インキは環境にやさしい植物油インキを使用しています。